

# きになる大岩 鬼岩屋

野市町北部の山の中にある「鬼岩屋」と言われる大岩。古くからの伝説や、昭和の地元ガキ大将の探検、ひたむきにトライする平成のロッククライミングの若者たちを、時を超えて見守り続けています。森の中にどっしりと、静かに構える大岩の今昔を取材しました。

担当 / 久保きみ

■問い合わせ ☎ 54-2296 【香南市文化財センター】

## 大岩と鍾乳洞

野市町東佐古の三宝山トンネル手前の交差点を200mほど北進した所を右手に入り、車を駐車し10分ほど山道を歩くと、うっそうとした林の左手に巨大な石灰岩が出現。長い間風雨にさらされ自然にできたでこぼこの表面で、ほぼ垂直に30mを超える高さでせり立つ壁のような大岩。さらに左斜面を這い上がると、大きな開口部が広がる鍾乳洞に思わず「すごい！」と息をのみました。

## 「お妻の墓」伝説

同行して下さったのは、子ども頃の頃近所の友達と「探検に行こう」とよくここを訪れていたという永瀬親徳さん(野市町・80歳)。「ここへ来るが65年ぶりばあやねえ。」と当時の思い出と一緒に、「お妻の墓」伝説のお話が始められました。

その昔、機織りの夜なべ仕事をしていた若者たちの間で「岩屋へ杭を打って来る者はおらんか」と度胸試しの話になり、「私が行く」と名乗りをあげたお妻は暗闇の中で、岩屋へ行き見事杭打ち成功。しかし、あやまつて着物の裾まで一緒に打ち込んでいたことに気付かず、いざ帰ろうとした時に裾を何者かに引っ張られたと思ひ氣絶し絶命したとのこと。(諸説あり)

## ガキ大将の告白

それから時代はかわり、昭和のガキ大将たちはいつものように探検に訪れたある日、雨が降り出し寒くなってきたので、鍾乳洞の入口上部にある朽ち果てた社に目をつけました。そして、その社を燃やして暖をとりました。「わしらあが焼いたが、どうもお妻を祭った社やったにかあらん」……。

## クライマーをも魅了

そして今、この岩場にはもう一つの顔ができました。それは昨年に11本のルートが整備されたロッククライミング。高知フリークライミングクラブ所属の山中一睦さん(香美市)と、静岡県から訪れた2人のクライマーがアタック中でした。国体などの公式なルート設定も行う専門の方が岩の形状などを見極めて開拓したルートで「くろしおくん」「かつお人間」など、高知にちなんだルート名も付けられています。

「クライミングの魅力は、やはり達成感」と山中さん。次へ次へと難易度を上げて挑戦し、ぎりぎりの状態で持久力、筋力、精神力そして努力が合わさってレベルアップできた時の達成感が、また次への挑戦につながっていくと熱く語り続けてくださいました。何より安全には最大限の注意を払い、装具にもこだわっていました。「命がけよりの心掛け」の言葉にクライマー魂を感じました。開拓にあたり、地権者や地元の方々に理解と協力を頂けたことに感謝しています。全国誌にも掲載されたことで、ここを訪れる人や、クライミング仲間が増えることを期待していますと話されました。

動かざる大岩は時代を超えて人々の挑戦を受けながら、今も静かにどっしりと構えています。

クライミングに対する熱い思いを語る山中一睦さん

「お妻の墓」とされる社があった場所を見上げる永瀬親徳さん

## 編集後記

▼今年度、広報の編集委員をしていただく皆さんです。市内各地に取材に伺いますので、よろしくお願ひします。

香南市の未来について、話がはずむ、話題提供のできる広報誌づくりを目指します!! (島崎 則彦)



町の元氣な情報を書きとめていきます!! (田中 たい子)



町の小さな話題がとても気になります!! (島村 立法)



カメラ片手にあちらこちらに出現します! みなさん笑顔をご覧くださいね!! (久保 きみ)



《広報へのメール》  
kouhou@city.kochi.konan.lg.jp  
《香南市のホームページ》  
http://www.city.kochi-konan.lg.jp